

進行上の注意 （北信大会 卓球競技）

＜団体戦＞

- 1 オーダー用紙は3枚複写となっている。1枚目は本部記録用、2枚目は相手校との交換用、3枚目は自校記録用となる。

- 2 オーダー交換は試合コートで原則として監督が行う。

試合番号が若いチームの監督が進行、反対が記録の係とする。

＊オーダー交換の際の注意事項

★試合コートに各チーム移動する。（試合番号の若いチームが、『対戦結果ボード』の設置した側とする）

★まず監督が三枚複写の二枚を持って、お互いに試合コートでオーダー交換する。

★『整列』の指示があったら、両チームは並ぶ。（選手はユニフォーム姿で整列する）

進行の監督に行っていたきたいこと

- | |
|--|
| <ol style="list-style-type: none">① オーダー交換をすましたのち、チームを整列させる。
（各校の1番が進行の監督側にくるように整列する） （1回戦のみ一斉で挨拶する）② 「これから〇〇中学校対、●●中学校の試合を始めます。（礼。）」と挨拶する。③ キャプテン同士、トスをさせる。トスをして勝ったほうのチームが1・3・5番の審判、負けたほうが2・4番の審判と、3番の副審とする。キャプテンと審判を確認する。④ オーダーの順番に並んでいるか確認する。初めに試合に入る台を確認し、試合を開始させるように指示をする。（オーダーの発表や改めての挨拶は行わない） <p>≪試合を行う →空いた台から4番、5番の試合を入れる≫</p> <ol style="list-style-type: none">⑤ 3点先取した時点で試合をとめる。（注意 3台以上で進行しているので、1・2・4を取ったとしても、3のダブルスが試合中であればその試合は行う）⑥ 試合が終了したら、整列、挨拶させる。（選手はユニフォーム姿で整列する） |
|--|

記録の監督に行っていたきたいこと

- | |
|---|
| <ol style="list-style-type: none">① 本部席より記録用台紙を持っていく。② オーダー用紙の1枚目を記録用台紙に貼る。③ 試合スコアを正確に記録する。④ 試合終了次第、お互いの監督からサインをもらう。 |
|---|

★勝ったチームの監督が本部に記録用紙を提出

- 3 すべて3点先取で行う。
- 4 試合はおよそタイムテーブルによって行う。
- 5 時間の関係上、5台一斉に使用する試合もある。また、長引いている団体戦については、空いている台を指定する場合もある。
- 6 フロアにすることができるのは、登録選手（必ずユニフォームにゼッケンをつける）・監督・登録されたアドバイザー、審判員の生徒（2～3名）とする。
- 7 監督・アドバイザー・選手は座って応援する。
- 8 試合間に空き台での練習は禁止とする。
- 9 ゲーム間の水分補給は認めるが、試合進行に影響のないようにする。また床にこぼさないように配慮する。

<個人戦>

★個人戦でのゲーム間のアドバイスは、一切認めない（ギャラリー・階段等からも）。
違反した場合には、違反者の退場及び選手の失格もありうる。

- 1 審判の割り当ては第1試合のみ、役員校の生徒が審判を行う。
（1日目のタイムテーブル右端）第2試合以降は、敗者審判制とします。
- 2 第1試合は、タイムテーブルにそって、**女子1-1 ～ 1-24** までの選手が台に入る。
女子1-25 ～ 1-32、男子1-1 ～ 1-16 の選手は、選手招集所（ベンチ）に集合する。
これ以降は放送により選手招集所に集まる。
- 3 試合に負けた選手は本部席に試合の結果を報告する。対戦表とともに、試合球の入ったかごを持ってくる。試合結果の報告は、以下を参考にする。
「試合番号1－〇番の試合は、3－〇で△△中の□□さんが勝ちました。」
- 4 試合に負けた選手はその台の審判を行う。勝った選手は、次の試合の放送を待つ。
- 5 2回戦以後の試合を勝ち抜いた選手は、2階に上がらず、ベンチ（選手招集所）にて次の試合を待つようにする。（変更の場合は、放送にて連絡します）

<その他>

○試合前の練習は、団体戦、個人戦ともに3本（1分以内）とする。

- 審判は、ストップウォッチで計測し、時間になったら試合を開始してください。
- 以降の試合については、通常通り3本の練習で試合にはいる。

<その他、競技全般に関わって>

- 1 **チェンジエンドは従来のルール通り行う。**5ゲーム目、先にどちらかの選手が5点を取ったとき、チェンジエンドを行うので忘れないように注意すること。
- 2 試合中のタオルは台にかける。ラケットケースを床に置きその上にタオルを置いても良い。
- 3 試合前のラケット確認は、相手に自分にラケットを渡さなくてもよいが、相手が確実にラケットやラバーを確認できるようにする。
- 4 試合後は、相手選手・審判への挨拶を基本にする。選手同士の握手については、選手同士が握手または、ラケットコツンをする。
※団体戦の試合終了後に監督、アドバイザーへの挨拶は、時間の関係のため行かないこととする。
- 5 朝の練習を行い、開会式や閉会式もフロアで行う。